

長い長い人生という物語では、 いつでも一人一人が主人公

子どもたちが安心できることは、自分の力で新しい世界への扉を開く勇気につながります。私たちは、そんな一人一人の「好き」に寄り添うことを大切にしています。

令和7年度がスタートしました。「好きが広がり、世界をひらく」を研究副題から主題に繰り上げ、子どもたちが「好き」を見つけ、わくわくしながら試行錯誤したり、友達と関わったりして世界をひらいていくことを願い、本園の教師たちもわくわくしています。

そんな子どもたちと教師たちのストーリーを、ニュースレターにしてお伝えしていきたいと思えます。



「虫さん出たいから遊び場作ってあげよう！」

土の中に虫さんを見つけたよ。おそろおそろ触ってみたんだ。柔らかくてかわいいな。新聞を広げて歩かせてみたよ。おやおや？新聞から出て行っちゃうよ！

そのとき先生が言ったんだ。「虫さん出たいから、遊び場作ってあげよう！」って。遊び場だって!?なんだかおもしろそう！先生はペーパータオルの筒をスイスイとはさみで半分に切り、虫が進む方向にそれをおいたよ。あっ！すべり台シューってしてるね。かわいいな〜もっとつなげてみよう！

さあおいで！
やったあ！できたね！

サーキットって楽しい！でも最後のジャンプはちょっとこわいな。
あ！先生がタンバリンをひらひらとひらめかせて僕を待ってるよ。

「さあおいで！」ってさ。あそこまで手をのばして「タン♪」で鳴らしてみたいな。
できるかな〜。せーの！「タン♪」

やったあ！できた！次はもう少し高くとんでみたいな！
あ！今度はさっきより少し高くなっているよ。

よーし、がんばるぞ！

虫というよりは「お友達」というような関係を感じたと教師は言います。幼い子どもは生き物を「お友達」と見て、一緒にあそんでいるのでしょう。優しい空気が流れていたと教師は振り返ります。

身体を思いっきり動かして遊ぶと、気持ちもすっきりします。初めての挑戦はドキドキするけれど、できたときの達成感は格別です。あの子は今日はどんな達成感を感じていただろうか？教師は子どもたちの顔を一人一人思い浮かべて考えます。明日はどんなことに挑戦してくれるかな。そう思って、明日の環境を構成していきます。

附属学園では、12年一貫教育という捉えで、子どもの成長を長いスパンで切れ目なく支えます。それが、子どもたち一人一人の長い長い人生という物語につながっていくことを大事に考えます。